

ぼっかぼか

第13号

函南病院新豊部

なぞの花おばさん出現!!



ランタナ

なぞの花おばさん

ミニミニ、
フラワーギャラリー
ご存知?

病院北入り口にいつの頃からか
さまざまな植物が飾られているの
をご存知でしょうか?

小さな鉢に可憐な草花や涼しげ
な観葉植物のよせ植、夏には水草
の水蓮鉢などが、季節の移ろいに
応じて私たちの眼を楽しませてく
れています。実はこの鉢植えのお
花達は植物を育てるのが大好きな
職員Yさんの作品です。セッセ、

セッセとお花を運んでくれるYさ
んに「いつもありがとうね」と、
声をかけると
「いいの、い
いの。ここに
飾って皆に見
てもらえると
思うと私もは
りがでるの、
今度はどんな
お花を連れてこようかとワクワク
できるの」と、謎の花おばさん(本
人はきつとおねえさんと言いはる
だろうが...)はニコニコと笑って
いる。

さがしてね
花おばさん

皆さんも早朝や夕暮れ時に、
大きな鉢をかかえてウロウロし
ている不信な人物をみかけても、
決して驚かないでください。そ
の人こそが謎の花おばさんなの
です。そして、玄関わきの草花
を楽しんであげてください。こ
の他にも外来に盆栽や大輪の菊
を持ってきて、花のある間楽し
ませてくれるMさん。ペーパー
フラワーを四季折々持参して下
さるNさんなど、たくさんの方



ハツユキ
カズラ

クミスクチン
通シヨウ(猫のヒゲ)



見事な
大輪です。

々のご厚意で花いっぱい函南病
院があります。

これからも
よろしく

皆さん、本当にいつもありがと
うございます。そしてこれからも
お構いなし範囲でよろしくおねが
いします。



ルリマツリ



オリーブ
の木

ペンタス

プミラ

介護シリーズ

今回は当院の訪問看護ステーションで作成し、患者様に配布されている「脱水」のパンフレットを掲載しました。

脱水ってなに？

私たちのからだの半分以上は水分で出来ています。水分の予備タンクとなるのが、筋肉です。ところが、年をとると筋肉量が減り、水分の蓄えも少なくなってしまうます。だから、お年寄りはいつもの土俵で相撲をとっているようなもの。ほんのひと押しで水分不足(脱水)を起こしてしまいます。

水は命の源であり、第一の栄養素。からだから水が失われると言う事は、じつは生命にもかかわる一大事なのです。水分を摂る量が少ない、あるいは汗やおしっこで飲んだ水分よりも多く出てしまつてしまひ、からだの中の水分が少なくなつてしまひ、「脱水症状」となつてしまつのです。



水分が少ないとどうなるの？

からだの中の水分が少なくなると、循環している血の濃度が濃くなり、ねばくなります。そのため、小さな血管が詰まりやすくなりま

す。それは「脳梗塞」や「心筋梗塞」などの病気の原因になるだけでなく、心臓や腎臓、脾臓など全身に大きな負担をかけてしまいます。



また、血が濃くなる事で、血糖値が上がリ、糖尿病の悪化にも影響してしまいます。ひとくちに脱水と言つても、さまざまな病気を引き起こす可能性がありますので、出てくる症状もいろいろです。口が渇く、わきの下が乾いている、

腕の皮膚をつまんだらしわが戻らない、生あくびが出る、などいつもと違う症状があれば、一日にどのくらいのおしっこが出て、どのくらい飲んでいるかをチェックしてみてください。

どんな事に

気をつけたらいいの？

飲み込みやすい体勢を作ること、誤嚥を防ぐためにも大切です。飲む時には車椅子かベッドに必ず座つて飲みましょう。寝起きの水分摂取は便秘にも効果的です。一口でも飲むようにしましょう。

まずお茶から始め、一口でも飲んだ後、ジュース、牛乳にしましょう。口に入れる量は、多すぎ、少なすぎるとかえつて反射でむせ込んでしまうことがあります。ひとくちで飲める適量を口に入れて下さい。水分が十分に摂れなければ、食事の工夫(ご飯をお粥にする、水分の多いおかずにする、汁

水 水
水 水



物をすすめる、など)をしましょう。かき氷やアイスキャンデーなども水分摂取としてはとりやすいものです。氷のかけらを口に入れて少しずつ溶かすのもいいでしょう。水分のある物ならどのような物でもかまいません。ゼリーや果物など、少しずつ食べましょう。まずはご本人と御家族が、「頑張つて水分を摂るようにしよう」と思われることが大事です。ひとくちずつでも飲む回数を増やしていきましょう。



去る十月十九日に県民文化ホールで第八回久会研究発表会が開催され、二年前から地域への浸透・地域の財産と認められるようにと一般の方へも公開で発表が行われるようになりました。出席者百三十七名の内一般の方の出席が三十六名もあり昨年に比べると多くの方が出席して頂いてることに驚きました。

今回は院長と同期でもある慶應義塾大学医療政策教室・池上直美教授を講師にお招きし、『これからの医療改革』について特別講演をお願いしました。内容的にはかなり難しく感じましたがこの機会でないとな日常業務に流され、深く聞き入ることがなかったかもしれません。

毎年久病院・関南病院から五、六題の研究発表があり、年々内容的にもレベルアップしてきています。

第8回 久会研究発表会



池上直己教授

院長総評



院長 久直史

八回目を迎えた
研究発表会に思う

久会研究発表会も八回目を迎え、今年十月十九日(土)に高知県民文化ホール(グリーン)で開催されました。昨年から一般公開の形で行っており、今回

療の問題点を感じ取ることができたらと願っています。

実りある
ディスカッション

講演会に先立ち、池上先生の希望で久会の居宅・訪問スタッフがのディスカッションが行われましたが、現在我々が行っている内容については非常に高い評価が得られ、全国の模範であると言ってもらえまし

は特別講演として慶應義塾大学医療政策管理学教室の池上直己教授に「これからの医療改革」というテーマでお話をいただきました。池上教授は私の大学の同期ですが、現在、医療政策の分野ではオピニオンリーダーの一人であり、貴重なお話を聞くことができました。少し、難しい部分もあつたかもしれませんが、それぞれの立場で現在の医

一層のレベルアップに努めたいと思います。研究発表会では五つの発表がすべてPCプロジェクトを用いて行われました。年々レベルの向上が見られていると思えますが、昨年特別講演をしていただいた近藤誠先生をはじめ外部からも評価をされるようになってきています。最優秀賞は近日中に発表の予定です。今しばらくお待ち下さい。

この人だあ〜れっ?? 関南病院 クイズ



左のキュートな幼女は誰でしょう?
幼女の腕に抱かれている人形は...



右のクールな好青年は誰でしょう?

部署別紹介

西二階とは

西二階は、医療療養型病棟といい、急性期を過ぎて退院を控えた方や、術後でリハビリが必要な方慢性疾患で薬剤等によるコントロールが必要な方看護・処置が必要な方や日常生活で介護を要する方など、様々な状態の患者様が入院されている、混合病棟です。

私達が目指す看護・介護

・チームワークを大切にし、

考える看護を実践します。

それぞれの職種の特徴を生かし、他職種と情報を交換しながら、その人に合ったより良い看護・介護を提供出来ることを目指します。

・人権を尊重し、その人に合った看護・介護を目指します。

ひとりひとりに個性があるように、それぞれの患者様が必要としている看護・介護も多種多様です。職員間で情報交換しながら、患者様の状態を把握し、必要な看護・介護を提供したいと考えます。

・寝かせきりにせず、
離床の促進を図る。

寝たきりの原因の一つに、安静を必要としないのに、精神的・身体的な理由から日中をベッドで過ごすいたり、必要以上の安静をとることで、意欲の低下・筋力の低下などが起こり、よりベッドから離れることが出来なくなり、寝たきりになる例があります。そのため私達は、日中臥床傾向にある患者様に、可能な限りベッドから離れて過ごす

時間を多く持てるような、援助をしていきたいと考えています。

・安らかな死を迎えるまでの援助

医療療養型での治療が終わると、生活の場は在宅であったり、種々の施設であったり、介護病棟であったりと様々です。また、家族の事情により、症状の改善と共に近医への転医を希望される場合もあります。そのようなケースでは、患者様や御家族の思いを大切にしながら、必要時は医療相談員への介入依頼を行い、担当者会議を持ち、退院がスムーズに出来るよう働きかけています。

・退院に向けての援助

日々の看護・介護の中で人間としての個人を大切に思い、出来るだけベッドサイドに足を運びます。そして笑顔で対応し、会話が出る患者様にはどんな小さなことでも受け止めて傾聴するよう心がけています。そうすることで信頼関係が生まれ、患者様の苦痛の軽減や症状緩和につながることができればと考えています。

最後に

私達の病棟は、笑顔と挨拶に心掛け、明るい病棟作りを目指しています。また、入院されている患者様が、病院の中でも季節を感じられるよう、四季折々の装飾をしたり、月に一度イベントを開催し、患者様と職員が一緒になって楽しめるような雰囲気作りをしています。



函南病院スイミングクラブ決定!!

ドルフィンズ見参!!



その名は函南ドルフィンズ。ネーミングはコーチの久武さん。「水泳をしませんか?」のお誘いに、少々コレステロールの値が気になり始めていた私は、渡りに船とばかりに参加することにしました。でも何十年泳いだ記憶がございません。確か平泳ぎは自己流で五メートル位はイケたかなあ?でも手足がばらばらで蛙に笑われるくらいにお粗末…。潜水で猫かきなら少々泳げたかしら?なにはともあれ、コーチを信じて十月五日、愛車の原付バイクで県民体育館のプールへGOO約一時間の練習でクロールの真似事ができるようになりました。

名コーチにささえられ



「腕をもつ少し上げましょ。いいですよ。」「息継ぎは一回に一回はましょ。もう少し頭を下げて息を吐きましょ。」「いいです。」「ここで笑い話を一つ。」「水の中で息を吐いて」と指導されて口がジブジブク。

たまちゃんプールをただよ

息継ぎで顔を揚げた時に「はい!」息を吐きましょうプア!」…そんな事を言われても、もう息が出ないよう…。不思議に思ったコーチが両手を握って一緒に水の中に。発見!水の中は鼻から息を出すんですね。(爆笑)



輝しい1期生たち

コーチの特訓の甲斐なく息継ぎができた生徒。

初めてなのにスゴイ!!



一緒に始めた数人はコースで五十メートル一気に泳げている。すごいね、きれいだねーと感心。でもねコーチ。息継ぎができなくてもクロールで二十五メートル位泳げたことは、私にとってはおめでとつ!の気分なんです。

これからますますご指導をお願いします。

函南ドルフィンズ一生徒より

ドクターゼミナール

あつくんのネパール紀行3

果たして冬將軍の到来は一日にして成るか

二千年も残すところ後わずか、人々がサカサカと追われるように師走の風に吹かれて消える夕暮れの道。あつくんはネパールの南東部ダマックという村にいた。誰のせいでも、行いの悪さでもなく…勤務するアマダ病院の仲間とも打ち解け、ネパール語も少しは覚え始め近所には顔がきくようになっていた。

そう、すっかり馴染んでいた。なかなか馴染みやあつくんに対してどうであったかは全く定かではない。他人が自分をどう思うかなんてメクソ、ハナクソ、余り気にならないのだ。うん、そこがよい部分となり得ることだ。そう、たまには…。

生まれて初めて海外で迎えるその年の大晦日は病院の仲間と年越しパーティーを開いていた。パーティーなんて云うと聞こえはいいがいつものごとく、大酒飲んでガオ、ガオと遠吠え状態であった。あつくんには日常のこの宴会風景もアマダ病院の医者仲間達にとっては決してあたりまえの事ではない。この国で医者になれるのはほとんどが高いカーストに生まれついた人達だ。彼ら、彼女らは非常に厳格な宗教のつとめた家長制度のもとで成長する。仕事仲間の中には今だに実家の父親の前では酒もタバコも飲まない人もいるという。

自分が一家の主となるまでは父に従い、主となれば又同じように厳格に規律を守るよい家長となるの

である。だが、その未来の厳格ババたちがあつくんと一緒にいるだけでどうだい、てなもんや、三度笠。実家のお父様が床屋の前の回転ボールのごとくクルクル目を回しても、蟹にも負けじと口角からフクブク泡を吹いてもオツツかないくらいいへばレケだ。本家元あつくんにだって負けていない。何が彼らをそうさせるのか…。

ある特殊な意味あいにおいてあつくんのこのパワ―は凄い。決して関心なんかしてはいけない種類のすごさだが、スゴイ事は確かにすごい。

それは、山が高いからすごいように、空が青いからすごいように、自然から何一つ逸脱せずすごいところが、頭の上にボワツと何か抜けちゃって最後にはなんだかちよつと笑えるようなすごさなのだ。

そして夜も更け「ハッピーニューイヤー」人々の新年を祝う声が聞こえるまさにその時、この国に冬は訪れるという…。

ネパールの冬はそのようにいと厳肅にして、しかも違わず、大晦日に到来するという。えーウンでしよう、にわかには信じられない話に何度か問い直すと、絶対、天地神明に誓って(何を誓うというのか、そもそもそのようなものを信じているとでもいうのだろうか…)大晦日の一夜を境に季節は巡り翌日から冬の衣類が必要だったと言いつ張る。尚もしつこくくささると、こらえしようなく果ては激昂!

「俺が一夜にして冬がきたゆーたら来たんや、そんな疑うんやつたら自分が行って見てこいや」

と、言い放ち得意そうにへんと鼻くそを飛ばした。うーん、くや



未来のゲンカババ達とあつくん

しい、くせい、くせい……。院長、取材費、ちよくだい。

ヤジキタ、おまけに スケさんカクさん珍道中

同僚のツロバイが結婚することになったという。ツロバイとは大きい兄ちゃんという意味の呼び名で本名ではない。彼はアム夕病院のお医者さんで年ころは三十歳位。ちなみにお相手は二十一、三歳のお嬢さんだという。何もかも位とかそつらしいとかいった表現が多いのはお許しいただきたい。なにしろあつくんなのだから……。

結婚式はツロバイの故郷ジャナクブルという村で行われる。ダマツクから車で五、六時間のところだ。その祝いの席に皆で(あつくんのお世話をしてくれる賄のバジエーも一緒だ)招かれる事となった。ワイ、ワイ。

結婚式の朝出発したランクルにはあつくんを含め病院の仲間とバジエー、総勢五名が乗り込む。あつくんはもろろん誰に遠慮も無く楽チンな助手席にドデンと腰をすえるが、可哀想なのはバジエーだ。後部席の真ん中あのクッションの硬いところにチヨンとちゅちゅいバジエーが、もつと、ちゅちゅく、ちゅちゅくなつて揺られてゆく……おう、ドナ、ドナ、ドナ、ドナ……。

信号機一本ない一本道(車二台が行き違いできる程度の道幅だ)をワイワイ、ガヤガヤ進んでいくと、道ぶちの所々に手結山のモチを売っているようなお店が点在する。いられのあつくんは早く着いてゆつくりしたい。が、皆はおっとりかまたものでやたら寄り道をしたがる。何故なら旅行なんてめったにしない事がないのだ。一生生まれた村から出るものがない人だつてめずらしくない。バジエーにだってはひよつとしたらはじめの旅行だったのかも知れない。



ポーズが似合うでしょ

道ぶちの店を見つけたら、「寄ろう、寄ろう」の大合唱。比較的大きな店ではレストランを兼ねていたりするのだが、大抵は茶店のようなところ必ず売っているのが、チャールでお茶という普通これが出てくる。あとは甘いお菓子に、カップに入った手作りヨーグルト、果物などを置いてある。

ついに茶店によるといって快拳をはたした皆はキャラメル味のお菓子を買って車に乗り込む。小麦粉なのかもち米なのか食べた本人が「解らん」と、いうのだから致し方ない。皆様も想像力を目いっぱい働かせてホウホウと膨らむフクロウさんになって聞いてほしい。

見かけモチのような練り状の固形物体がビニール袋の中に入っている。バジエーが後ろのちゅちゅい席でセッセ、セッセとうれしそうに一口ちぎってはその固形物体を小さなおだんごにして皆に配ってくれる。そして自分も一つ類張る。また、セッセ、セッセと団子を作る。粉っぽくなつた手をパンパンとはたく。前のシートに掛かっているあまり綺麗でない布のカバーになすりつけて手をふく。また、ニコニコと団子を作る。皆にニコニコ配る。前のシートで手をふく……いいいかなあ、その手……そしてダンゴ……。

てな訳でジャナクブルの町へ着いたのは午後遅くになってた。そこで車を降りてリクシヤと呼ばれる人力車(ジテンコ)に乗り一時間ほど揺られて揺ら

れてツロバイの実家におじゃまする。

一族の長老たちである十人くらいのおじいさん達がくつろいでお茶を飲んでいる。一通りのあいさつを済ませた後ジャナクブルの町のレストランで食事をするという。さつき一時間も揺られてきた道を今度はスゴイ、二台のバイクで何往復もして田んぼの中の道、皆を運ぶ。

一番最初にバイクの後ろに乗って出発した人が、一番最後にバイクに乗った人とレストランで出会えるのは、いったい何時間後でしょう。と、その昔の算数の問題を思い起こす。ハイ、出来た人から帰つてよろし。

いよいよ異国のウエディング

食事の後、普通の路線バスに乗って結婚式場となる花嫁の実家に向かった。ある特定のコースに層する人達の結婚式はたいいてい花嫁の実家で行われる。余計な事だがこの異国の婚姻にはダイジエーという持参金制度があり、花嫁側から花婿側に支払われる。現金、金銀の装飾品、家具、テレビ、オートバイ、花婿の洋服、など……。お嫁さん側の負担はムコさん側のおよそ六倍と言われ、女の子をたくさん抱えた家庭はなかなか大変らしい。

ちなみに我らがあつくんちも三人娘……よかつたよねえ、日本で。

夜七時から始まったお披露目は自宅の庭に大きなテントを張ったガーデン形式で、ネパールの音楽が流れる中、二百人ほどのお客様を迎え和やかに進行していた。男性優位の社会なので女性が人前に出ることは少ない。ほとんどがおっさんで女性の姿は十人程しか見かけなかったという。

花嫁さんきれいだった? ワクワクしながら聞く。と、うん、俺、花嫁さんみたんかなあ……。うん、ツロバイは確かにきれいだった、と、気の抜ける返事。

花婿はまるでアラビアンナイトの様な衣装に孫悟空の輪で止めたようなベールをかぶり、アイラインもくつきり引いた化粧も施し、凛々しくも大層美しかったという。

それなら花嫁に至ってはどんなにきらびやかに美しかった事だろうと、思うのにお目にかかったかどうかさえ定かでないという。

どうしてこう肝心なものに目が行ってないのかと落胆していると、あ、思い出した。見た、見たと突然。前方中央のテーブルにうら若き美しい娘さんが座っていたという。黙ってただズーツと大人しく座っている彼女を見て、可哀想につかれんのかなあと思つたらしい。要するところ感想はそれだけだ。

目指して、努力して、ワザワザ行った訳でもないのに異文化の国ネパールで結婚式に呼ばれるなんてこんな滅多にないチャンス、宝くじに当たるより確立は低いかも知れないのに……こんなところで運だけ使つても……。

宴に登場する飲み物は例のお茶チャアやファンタやコーラなど甘いジュース類。甘い(とにかく甘いものはどれも強烈に甘い)。食べ物はお菓子やダルという豆のスープ。いくつも並ぶ大きな鍋の中には炊き込まれた米料理が入っている。

アルコールは出ない。実は到着してから何故わざわざレストランで食事をしたかというと、遠路はるばる日本から来た大酒飲みの客人の為に気を利かせたツロバイがわざわざ予約したもにのだった。何故ならレストランにはアルコールが売れるほどあるから、イエイって、実際売っているのだ。

無事披露宴も終わりその夜はジャナクブルの町のホテルでぐっすり眠った。ヤレヤレ、おやすみあつくん……。

もともとは皆なきつとそうなんだろうが遠足気分のバジエー達はいつも増して早起きだ。朝から大騒



手術室にてあつくん

ぎなんだよう
と、あつくん
少々寝不足気
味。この日は
フトワールと
いう町にある
アムタの小児
病院を見学が
てら訪れる予
定になってい
た。

朝食を済ませたらやっぱりサッサと出発したいあつくんに対し、ダツマクに帰るのだが途中バス停のある分岐路までランクルに同乗するパジエー達は觀光を希望。多勢にフセイであつくんもお寺めぐりをするハメに……。

ヒンズー教のお寺を二、三軒。昔々、王家の一族が住んでいたお城も見学したらしい。らしいというのは例によって全く興味のない事には「記憶」とか「記録」とかいう働きを使用しないあつくんの事。お寺はどうだった？ の問いには

「人がイッパイあって、色彩がカラフルで、そこら中花だらけだった。なんかやたらキラキラして屋根の先がお城みたいにとんがっちゃった。あれ？ あそこはお城やったっけ。あれれ」と、この調子……。フトワールの小児病院は見学だけの予定が、日本から来た外科の医者さんが来るってよ、てなもんで手術待ちの子供たちが殺到。結局朝から晩まで手術をするはめに……。でも子供たち、皆な良かったねこつやってお仕事も立派にこなしているあつくんなのでした。

そろそろお別れ

まだまだたくさん面白い話はあるのです。一年か

けて自分のテリトリーを一周する象、タンセンの町の様子。週に二十回は停電する手術室の予備電源をばとが……書きたいことは山々あれど、キリはないし、もつ、たいがいにしなさいやとヒンシユクは買出し、ここから先は皆めいめにあつくんをひつ捕まえては聞いてください。まだまだ、叩けばホコリ(?) の出る体……。

最後にアムタ病院の仲間たちが盛大な送別会を開いて別れを惜しんでくれたのはもちろんの事、湿っぽい話が照れくさいあつくんはあまり多くは語らないが、仲間の話をする時は聞いてるほうが勝手にウルウルしてしまう。結構溶け込んでたし、結構慕われてたし、あつくんだって皆の事大好きだった。

そんな悲しみをぶつ飛ばす為(？)、果たしてぶつ飛ばす必要があるかないかは別にして、ダツマクを発つてカトマンズから日本に向かう機上の人となるまでの四、五日間の休日に、持つてるネパールのお金をせくぶん使っちゃったそつだ。最後に空港で喉が渴いても五〇ルピー(約七十円)のお金がなくくてコーラが買えなかったと云うんだからどうだ、さすが、あつくんでしょ、わっ。

人々は心優しく山も土も風もあるがまま、さまざまな神々や精霊、水牛たちが共に生きる国。そんな国だからこそ軽々とあつくんを受け入れてくれたのか、それともあつくんの内部に潜む何かがこの国を求めて止まぬのか、互いに引き合うようにネパールとあつくんはそつと寄り添う、そつと、そつと……。

最後の最後に、そしてあつくんはこの冬も一度ネパールに向かう。いいことも悪いこともひっくり返る縁の切れない古女房に呼ばれるように……。「あなた、グズグズせんと早よ来てよ」ほら、呼んでるよ、あつくん。

あいのひろば

夏祭り

平成十四年八月七日、介護病棟の東四階ホールにて、八月のレクリエーションとして、夏祭りを開催しました。当日は、多数の患者様にも参加していただき、一緒に歌を唄ったり、かき氷を食べたいただき、楽しい夏祭りになりました。当日の目玉行事は「函南鳴子踊り子隊」。夏祭りにむけて一カ月ほど前から介護病棟スタッフが休憩時間を利用して、鳴子踊りを練習して、みなさんに観ていただきました。当日



よっちよれ! よっちよれ!

スタツフは、色とりどりの浴衣や法被に身をつつみ、ホールに來れない方には病室までいって踊りを披露し、喜んでいただきました。

敬老会

平成十四年九月九日、十三時三十分～十四時三十分食堂にて、大正琴及び日舞を披露しました。大正琴演奏曲数は五曲、なつかしい曲からアンニまで、日舞は坂東流にて舞いました。

九月二十日、緩和ケア病棟でお月見会を行いました。今夜は、満月にいい願いをこめて楽しみました。よつ「徳岡DRがあいさつを始めると、満月は東の空の雲からゆっくり顔を出してくれました。中国では、仲秋の名月に、家族や仲の良い友人が集まる習慣があるそうです。私たちも、患者様、ご家族の方々と、市川先生の美しいピアノやかも部のステキな歌を聞きながら、楽しい一夜を過ごすことができました。

お月見



日舞も短時間でしたけれどもいい思い出になりました。



参加者が少なかったので心配していましたが、曲の流れによって参加人数も多くなり、ベッドで参加されていた患者様も、曲目によって手拍子をして楽しむのを見られていました。



楽しく合唱

うちのじまん

ギリシャ陸ガメ
アモルちゃん
多分女の子

ムシャムシャ

僕はピラフ食ベニヤイだよ!

ハムスター
ユウジロウ&クマドン

僕は一度にひまわりの種を七つも類張れるのだ!! エヘン!

でも女の子なの...!

ピーターラビットのいなば君

★きんきらん★

出句 日和佐 歌門

敬老会患者食堂片付けて
コスモスや稲を作らぬ田となりぬ
病院車今日はコスモス観覧車
コスモスや色よき一本盗み来し
コスモスや四分五分咲きの便り聞く
車椅子師長に押されコスモス見
早咲きのコスモス狭田一つぱいに
車椅子目線は低し秋桜

このコーナーは読者の皆様方の声広場です。
俳句・短歌・川柳・詩・身近な出来事・などたくさん投稿していただき、交流の場としてシリーズでお届けしていきます。ほのぼのと暖かいコーナーに育てていきたいので応援して下さい。皆様の投稿をお待ち申し上げます。

フータロー日記

パート6

我が輩は生まれながらの飼猫である。夏が過ぎるとたまらなくわびしくなってくるのである。俺はロマンチストなのだ。この春の雨の日に嬢ちゃんが拾ってきた捨て猫のモコ嬢も早お年頃。藪の中で目も開いていない子猫が、雨に濡れてミャーミャー泣いていたそうだ。ご主人様が産湯に入れて(?)湯たんぼで温めてやつと猫らしくなつたんだが、そこから俺の出番だ。母性本能ならぬ父性本能發揮。毎夜一緒に添い寝をして毛づくろい。可愛いものである。こんなかわいこちゃんを捨てる親の顔が見てみたいものだ。しかしどんなに可愛がつても俺にはかなわないものがある。俺の乳

発行 医療法人久会函南病院
編集 函南病院新聞部
編集長 久直史
高知市知寄町一五一五
電話(〇八八)八八一三二二六

この人だあ〜れっ??



左のキュートな幼女は都築師長でした



右のクールな好青年は田村Drでした

答え

首をいくら吸つても出ないんだよー。秋は俺びしいものである。俺の彼女にしようなんて下心は何もなかったと言いつつ切れないんだが、ふわふわ真つ白のモコ嬢は俺には見向きもしないのである。教訓一追いかけるほど雌猫は逃げていく。(フータロー)